



時代が希求するもの

デジタルツールが発達し、世界中で起きている様々な情報を同じ次元で捉え、思考・判断し、自由に表現することができる時代である。AIは大量のデータを主体的に解釈し、子どもが教わらなくても親の声をまねて話せるように、自らをスキルアップさせ、文章を作成するまでに至っている。

デジタルツールが発達し、世界中で起きている様々な情報を同じ次元で捉え、思考・判断し、自由に表現することができる時代である。AIは大量のデータを主体的に解釈し、子どもが教わらなくても親の声をまねて話せるように、自らをスキルアップさせ、文章を作成するまでに至っている。

コロナ禍では同期型・非同期型によるオンライン学習が日常となり、「令和の日本型学校教育」などで標榜される個別最適化学習が加速している。学習者の課題としては、学習習慣の定着とモチベーションの維持、指導者の課題としては、ファシリテーターとしての役割とICT機器操作の習熟が挙げられる。

の改訂では、予想不可能な社会課題に対する探究型学習が焦点化されているが、ゆとり教育や1点刻みの入試からの脱却など、これまでの理念先行による教育改革の轍を踏んではならない。大切なのは、本質を見極め、最適解を論理的に追求する力。同時に、リアルな社会課題に挑戦する感性と斬新な発想であり、これらは不易流行である。

深い学び」をめざし、テキストは教科横断的な色彩が濃くなり、トピックも新型コロナウイルスなど、最新の事象が多く取り上げられるようになった。今回

の強みや進みたい方向を見つけ、自律につなげる場。しかし、実態として、学ぶ意味や意義を実感し、そこに強くコミット、真剣に向き合う意識をどれだけ育成できているだろうか？ 通学する目的が大学進学、クラブ活動などにあり、単なる通過点に終わっていないだろうか？

社会課題の解決とビジネスを両立するのは難しいという声をよく耳にする。しかし、社会性と利益が繋がっている以上、社会性のないビジネスはあり得ない。問題なのは、何のために仕事をしているのかという問いかけがなくなり、ビジネスの持続そのものが目的となってしまうこと。パーパス（社会での存在意義）が大切だといわれるようになったが、何のためのビジネスか再認識することも必要である。これは勉学でも同じ。ビジ

ネスは本来、社会問題解決のためには必ず。従って、その前段階とも言える中高ではSDGsなどを協働的な学びとして捉えるコンセプト・チェンジが不可欠となる。

そして、共有すべき点が市民性の育成。カリキュラム・マネジメントを通じて、教科内容と社会とのつながりを明確にし、総合的な探究の時間や特別活動がキャリア教育の場となるような学びの空間を創り上げることが不可欠である。

仮想空間と現実空間が融合した「第5の社会」を迎え、価値観が変容しつつある中、求められるのは様々なネットワークを使いながら興味・関心の対象についての能力を高めつつ、しなやかにソーシャルビジネスを展開していく資質を育む教育であり、それが「キラキラ感」に結びつくと考えられる。



第39回

神戸山手女子中学高等学校
校長

平井 正朗

Profile

平井正朗 (Hirai Masaaki)

神戸山手女子中学校高等学校 校長

濱名山手学院 理事、関西国際大学 客員教授、大阪市教育委員 [教育長職務代理者]、全国芸術高等学校校長会 理事、国際教育学会 理事。

2021年度より同校校長に就任。学校事情に詳しく、大学では「学校経営論」他、教職科目の教鞭を執る。著書に『平井校長の英語のしくみ探究講座』（三省堂）他多数。